

『夜』 作：ポチ子

『夜』 作…ポチ子

夜は意外と明るい。

街灯はそこら中にあるし、

開いてる店の明かりは眩しいくらいだ。

嫌なことがあって、

夜に逃げ込んでしまおうとしても、

全てを染めてくれる黒はそこにはない。

ただ、街灯に照らされる自分がいるだけだ。

だから、外に出たついでにコンビニでアイスを買って、

溶けてしまわないように小走りで家に帰る。

なんだか暗い気持ちで外に出たような気がするけど、

家に着くころにはそんな事忘れてしまつて。

クローラーの効いた部屋で、

走った割には溶けたアイスを食べながら、

自分は馬鹿だなあつて思う。

虚しいような、

楽しいような、

夜は、不思議な気分させる。